

<奮闘 伊の採集犬訓練士> (100415 毎日)

「人口当たりの飼犬の数が日本の倍のイタリアには、羊飼いや働く犬が多い。けなげに専門職をこなす犬がいると聞き、中部トスカナ州を訪ねた。地中にある珍味のキノコを掘り当てる「トリュフ犬」だ。そこには訓練士の強い愛情と、意外に孤独な一面があった」「中世の巡礼者が築いた人口1万6000の町サンセポルクロ」

「5年前に訓練士の資格を取りトリュフ犬を育てるようになった。トリュフ採集業のおじにコツを聞き、独自で育成術を編んだ」「訓練は生後2,3カ月で始める。最初はボール投げの訓練。その後、トリュフを入れた容器や冷凍トリュフを地中に埋め、「ボールはどこ？」と声をかける。掘り当てたら「ブラボー(すごい)」と主人にほめられ餌を一粒もらえる。餌目当てだが、子犬は餌の後でも掘り続けていた。餌だけではない。やはりほめ、可愛がりたいのだ。…「犬もトリュフが好きなので、放っておくのみこむ。口の中に入れ主人を見上げた時に取り出すのが大事だ」…「頑張る犬、すぐ飽きる犬と個体差がある」

「黒トリュフは年中、また貴重な白トリュフは9~12月によく採れる。ダイヤのように粒が大きいほど単価が高い。白の場合、100g未満の大きさで卸値は1千€。1000€(約13万円)台。700gになると1千€。5000€(約64万円)になる。黒はこの5~10分の1だ」

「一攫千金だが、ポッジー二さんのトリュフ採集と犬の繁殖、訓練での年収は2万€(約260万円)ほど」

「不穏な話を聞いた。毒入りの餌でライバルの犬を殺す事件がたまにあるという。「採集者はあまり交流しない。それぞれが集めた穴場の情報を交換せずほとんどが単独行だ」「トスカナ州に5000人、全国に3万を数えるトリュフ採りのプロたちは、それぞれ犬を連れ間にまぎれるように家をたつ」

<地下高騰 操る官・業> (100406 読売)

「万博、それに続くディズニーランドとも「経済波及効果」は1兆円(約13兆円)以上」…標準的な分譲住宅の価格は平均世帯年収の20倍近くに高騰し…「都市開発では、役人が業者に公有地の使用権を切り売りし、業者側は建てた家をワイロにする。だから役人も業者も不動産価格高騰をあおっている」…莫大な利益からみると、ただ同然の強制収用で土地を確保し、開発業者と官がもうけを折半。ぬれ手にあわの錬金術がある以上、権力が支配する市場の沸騰は収まらない。国有工場と住民1万8000世帯を立ち退かせた万博用地もまた、金を生む木となる」

「万博を経て、中国は、この巨大都市を国際金融センターにする計画だ。権力による土地錬金術の上にそびえ立つ摩天楼に、さらに大量のカネが注ぎ込まれる」

<高い掲載料 契約解除可能> (100415 毎日)

「あなたの俳句を新聞広告に掲載させてください」などと、広告代理業者から高齢者が電話で勧誘され、高額な掲載料を請求されるトラブルが急増している。高齢者の短歌や俳句の趣味につけ込む悪質な手口として国民生活センターが呼びかけている」「契約額は平均約26万円で、中には9社と契約し、830万円を支払った人もいた」

「業者は高齢者宅の電話番号を、図書館で閲覧できる地元の短歌や俳句の同人誌に掲載されている住所録で特定しているらしい」「絵画や書道、写真など他の趣味でも同じトラブルが起きているという。同センターは「断り切れずに契約しても、電話勧誘販売は契約書を受け取った日から8日間は契約解除できる。家族や消費者センターにすぐ相談してほしい」と呼びかけている」